

令和元年度（2019年度） 自己評価結果表

令和2年3月31日
社会福祉法人ふじみ野会
子どものそのBaby保育園

子どものそのBaby保育園は、産休明けの0歳児から2歳児まで、定員30名の小さな保育園として、2003年（平成15年）に誕生しました。

2006年には子育て支援センターも増設して、一時保育と共に地域社会の大事な公共的な施設に育ちました。2015年増改築をおこない、乳児保育園から定員80名の保育園に生まれ変わりました

本法人は、ふじみ野市の子どものその幼保連携型認定こども園・子どものその苗間保育園の3園を運営しています。3園が下記の保育理念と保育目標を掲げ、子どものそのグループとして連携し、学び合いながら保育を行っていきます。

【本園の保育目標】

わたしたちの願い（保育理念）

豊かな自然	自然の中でのびのびと子どもを育てます
あたたかな人間関係	おとなの愛情と仲間の中で子どもを育てます
ほんものの文化やあそび	豊かな文化やあそびの中で子どもを育てます
地域とともに	園と家庭、地域がいっしょになって子どもを育てます

私たちのめざす子ども像（保育目標）

- ◎友だちと思いきりあそび、自分の気持ちを素直に表現でき、人とつながって生きていく子ども
- ◎何にでも興味・関心を持ち、自分でやってみようとする子ども
- ◎失敗を恐れなくて挑戦し、仲間とともに学び、その経験を生かす子ども
- ◎あそびの中でからだを動かす楽しさが分かる子ども
- ◎生活習慣を身につけ、健康な生活ができる子ども

【本年度、重点的に取り組む目標・計画】

年長クラスが出来3年目を迎え幼児の育ちや行事の取り組みなどについて考えています。乳児の実践を積む中で内面の発達、友だちとの関りについて保育を見つめていきます。子育て支援事業の支援センターと一時保育の子どもと保護者の関りと支援について見つめていきます。

【振り返りと自己評価】

1, 保育内容について

(1) 乳児

おとなの支えを基にしながら自我が芽生え自我を育てていく乳児期は、友達に興味関心を持つようになり自分の思うようにいかなかったことでいらだつ子ども達です。そんな子どもたちが、ごっこ遊びの中で何かの役になったり、何かのつもりになることで今の自分から憧れの自分に成長する姿と、その時のおとなの役割の重要性を実践を通して学びました。

(2) 幼児

行事の取り組みの中で成長していく子ども達。子ども達の自主性を尊重するということはどういうことなのか。子どもに任せると進まないが、子ども達と一緒に考え、子ども達の発想を大事にしながら一つ一つをゆっくり進めたい。実践を通して、行事の取り組みの中で子どもたちの内面の育ちや仲間関係の育ちを実感しました。

2, 保育内容の周知と保護者との関り

毎月各クラスからその月の保育の内容と到達点を子どもの姿から報告と、来月の保育計画をプリントにして配布しています。その月の子どもたちの様子や園の様子、伝えたいことなど園だよりとして配布しています。その他各クラスからその日の様子をクラス新聞として発行したり、送迎時に直接話をするなどコミュニケーションをとるよう努めています。

また、子ども通しのトラブルや保育での心配事など、家庭の様子や保護者の不安など話し合いをもち、子どもの様子を共有できるようにしてきました。

3, 給食と保育

多様な食物アレルギーの対応にあたり、アレルギーの子の給食をお盆を替え、誤食防止にとりくみました。

野菜の洗いや皮むきなどを体験。給食を栄養士がクラスで一緒に食べるなど食育に取り組んでいます。

4, 職員同士の協力・連携

クラス内の話し合い、リーダー会、全体職員会議、など職員が子どもたちの様子を共有し合えるようにしています。子どもへの理解や対応を共通の認識をもって保育できるよう努めています。

5, 研修の充実

園外研修やキャリアアップ研修など職員の行きたい研修に積極的に行かれるようにしています。研修で学んだことは実践の中や職員会議に役立てています。

6, 健康・安全・衛生への配慮

散歩道の安全を職員で確認しました。

毎月の振り返りにおいてヒヤリハットの事項を職員で検証、今後につながるように話し合っています。

送迎時間以外は玄関を施錠しています。

9:30以降登園の出欠確認が出来ないときは保護者に確認しています。

昼寝は子どもの顔が見えるように明るさを調節し、乳児は呼吸チェックとうつぶせ寝を防止しています。

2020 年年明けごろからの新型コロナウイルス感染が広がってからは健康チェックを行い体調不良の早期発見に努めています。

7, 地域との連携と支援

子育て支援センターを実施し、地域の子育て中の保護者の方の居場所となるよういつでも立ち寄り、おしゃべりが出来る場所として利用しやすいセンターづくりに努めています。一時保育では就労、リフレッシュと理由は問わず定員までを予約制で行ってきました。年度後半になり新型コロナウイルス感染が広がる中感染対策をとっての事業となりました。

【今後の課題】

1, 保育の推進

幼児の行事など子どもが主体として活動するためのおとなの役割や子ども同士の関わりと自我形成をどう大人が支えていくか、ごっこ遊びや楽しい活動を見直し職員間で実践を交流し合い、保育の質の向上に努めていきます。

2, 職員の研修

職員同士の意見交流、共通理解を持つこと、子どもの観方など実践から学び時には研修し高めていきたいです。また、キャリアアップ研修も進め、スキルアップに努めていきたいです。食についても偏食や詰め込み食べなど、食に関する悩みが活動と関係していることも多くあることが実践の中で見えてきています。栄養士とともに考え、取り組んでいきたいです。

3, 保護者との関わり

日常的に子どもの姿を出来るだけ伝え家庭での悩みや様子を共有できるようにしていきたいです。また、保護者の会ひよこの会の活動も保護者の負担にならず一緒に子どものことを支えていける活動になるよう新しい活動の姿を探していきたいです。

以上